

JA 中央会飛田会長と麻田会長との懇談会報告

8月4日、JA中央会の飛田会長、内田副会長、山田総合管理室室長と道連の麻田会長、山口専務、川原事務局長の参加で懇談会を行いました。懇談テーマは、「今日的協同組合の役割と北海道における協同組合間協同の発展について」意見交換を行いました。今日的な社会情勢の行き詰まり中で生産者の協同組合（JA、漁連、森連）と消費者の協同組合、更に他の協同組合との提携を強化していくことの重要性について共通認識が出来ました。トップ会談は、年2回程度開催し、その間実務者レベルでの打ち合わせを重ね具体化を検討することを確認しました。具体的な課題としては、JAグループの購買事業とコープさっぽろの店舗事業の提携、JAグループの燃料事業の提携、協同組合の理念の職員教育などについて意見交換されました。

道内における協同組合間協同の取り組みは、2012

年国際協同組合年（IYC）の提起を受けて、北海道協同組合連絡協議会（JA中央会、北海道生協連、漁連、森林組合連合会）の主催で講演会を2年連続して開催しています。今年も講演会の開催に向けて調整を進めたいと思います。

国際協同組合デーは、協同組合運動の発展と普及を進める記念日として、国際協同組合同盟（ICA）が7月の第1週に設定した。国連もICA創設100周年の1995年に「協同組合の国際デー」と認定した。グローバル企業が市場を独占し、貧富の格差が拡大する中で弱者が協力と相互扶助によって強者に対抗する協同組合の価値と役割の重要性が増しています。

多様な協同組合同士が交流し、相互理解と信頼を深め、協同組合間の事業提携を実現することで地域の活性化につなげていければと思います。

北海道 労働者共済

第61回北海道労働者共済生活協同組合通常総代会が終了しました ～2013年度経過報告及び2014年度計画が確認されました。～

7月31日（木）、第61回北海道労働者共済生活協同組合通常総代会及び第5回全労済北海道本部代表者会議をホテルポールスター札幌にて開催しました。今総代会（代表者会議）には総代（組合員代表者）130名中、書面議決を含む118名が出席し、総代会では「2013年度単協事業報告・決算報告」「2014年度単協事業計画・予算設定」「全労済総会議案審議の件」等11議案、代表者会議では「2013年度北海道本部統合事業経過報告・決算報告」「2014年度北海道本部統合事業計画・予算」等4議案について、全体で承認されました。

2014年度事業計画は、全労済2014年度～2017年度中期経営政策の初年度でもあることから、主に次の3つの政策「①事業維持・拡大のための政策実行（事業

構造改革）」「②効率的な組織機構・態勢を構築（組織改革）」「③事業と運動を支える人材育成に向けたしくみ・機能の再構築（意識改革）」を踏まえた具諸的な取り組みが提起され確認がされました。

また、合わせて社会貢献事業の一環としてNPO団体等への諸活動への助成金交付に伴う表彰式も実施し、各々の団体へ目録及び記念の盾を贈呈しました。

引き続き、取り巻く社会情勢や経済環境は厳しいものの、全労済の理念である「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」を実現するために役職員が一丸となって、協力団体・組合員の皆様の期待に応え、ともに運動・事業を拡大させさらに前進させていくことを全体で確認し、無事終了しました。



総代会で挨拶する三浦理事長



助成団体代表者の方々との記念撮影

8月6日午前「原爆死没者の慰霊式・平和祈念式」が行われる平和公園へ、皆さんから預かった折鶴を奉納？し、雨のためダイ・インはできませんでしたが黙祷をし、平和資料館で原爆について学びました。

午後からはバスに乗って広島市内をまわるフィールドワークに参加しました。事前に渡された資料には『69年前の原爆から始まり140年近く前の軍都広島にさかのぼり、また原爆に戻ります。広島のみならず日本の近代史の勉強にもなります』と書かれていました。



爆心地から2,7キロメートル離れた鉄の扉が変形している

バスを降りて見ながら説明を聞いた場所は、多聞院（被爆で鐘楼のはりが折れた爪

跡）、米軍が、被爆の体に与える影響を調べるため被爆者を呼び出し、大量のデータを取った。治療はひとつもなかった放射線影響研究所（旧 ABCC）。比治山陸軍墓地は1872年に作られ、全国46都道府県の戦死者のお墓、日本人だけでなく韓国、独、仏人の戦死者のお墓も（右写真）。爆風で鉄の扉が変形している、陸軍被服廠跡（左写真）。最後は被爆した墓石のあるお寺など、3時間いっぱい、説明を聞きながら見てまわりました。会の説明者の「ここはこういう理由でバスの窓から見るだけ」「ここは降りて見て説明を聞いて欲しい！」というのがはっきりにしていて、説明者の思いが強く伝わりました。



北海道医療生協 「戦争の記憶を語り継ぐ会開催」

北海道医療生協では地域活動推進室の一行事として、医療生協支部協議会で毎年8月に、すこやか会館にて平和に伴う行事として「戦争の記憶を語り継ぐ集い」を開催しています。今年は終戦69年を迎えましたが、平成26年8月5日(火)午前の部で3人、午後の部で3人の弁士による体験談でした。①[日本の民話を語り伝える会]の代表でもある藤井紀子さんの「赤いハマナスの影」で、太平洋戦争の末期、網走原生花園を走る列車が米軍の空爆を受け幼い子どもの生命が奪われたお話 ②[日本の民話を語り伝える会]の亀川正子さんの「とうろうながし」広島原爆投下・「灼れた目」長崎原爆投下、③白石支部の柳澤俊雄さんの「私の八・一五」として当時13才で、床屋さんにて玉音放送を聴いたお話等があり、昼食タイムをとり、午後の部 ①厚別支部の芳賀昶さんの靖国神社に250万人の英霊が祭られていて、そのうちの150万人は餓死されたとのこと、また真珠湾攻撃等のお話（当時9

才のため文献等資料から）②厚別支部井上章さんからは広島県の端の田舎で農作業中に、原爆が投下された時の様子等のお話 ③大谷幸男〔支部協議会代表〕さんは小学生の時に防空壕に避難した時の様子についてのお話があり、今年も親・兄弟が戦死および少年期に戦争の空爆、原子爆弾投下された広島市、長崎市等の悲惨なお話があり、2度と戦争を繰り返してはならないと強く強く感じたところで有り、後世にこの悲惨な戦争の体験を知らない私をはじめ、若い世代に語り伝える義務があると思います。最後になりましたが戦争でお亡くなりになられた諸先輩のご冥福を心からお祈り申し上げ、報告といたします。



厚別支部 芳賀 昶さん



民話を語り伝える亀川正子さん

2014年度第2回理事会開催される

8月7日第2回理事会が小松理事（さっぽろ高齢者福祉生協代表理事）の議事進行で開催されました。確認されました報告事項は、①一般活動経過報告②2014年第1四半期決算③福祉PJ活動報告④ホクネット役員改選報告⑤8月4日JA中央会との懇談報告⑥2015年NPT（核不拡散条約）再検討会議について⑦2014年度事務局体制について⑧北海道他からの通知他⑨友好団体他からのお知らせ⑩北海道・東北地連報告がなされました。

議決事項では①2014年度役員報酬の件②米田理事退任届受理及び理事会オブザーバー参加の件③大学生協連北海道事業連合との業務委託契約の件④大学生協連北海道ブロック理事長会議共催の件⑤道連会費見直し論議について⑥次回理事会運営の件について議決されました。

審議事項として①TPP問題及び電気料金値上げ問題②集団的自衛権行使容認問題③被害者生活再建支援の取組④2014年度灯油問題⑤来年度道連総会について審議しました。

論議を重ね、電気料金問題では今回の値上げ申請の問題点が指摘され、道生協連は消費者の立場でしっかりと意見陳述することを確認しました。

集団的自衛権行使容認問題では、道連としてお誘いのあった「戦争をさせない北海道委員会」活動に賛同し協賛していくこと及び麻田会長が呼びかけ人となること確認されました。また被害者生活再建支援の署名活動では、活動の獲得目標に曖昧な点があることが指摘され、組合員に提起する活動としては、不十分であることから道連としては取り扱わないこととなりました。

以上、ご報告致します。